

「デートDV」^{ディーブイ} 予防・防止のために保護者としてできること

最近、「デートDV」という言葉をよく耳にするようになりました。「デートDV」とは「DV」Domestic Violence（ドメスティック・バイオレンス）の一種で「親密な関係にある若者間の暴力」をいいます。DVは、本来は結婚している夫婦間の家庭内暴力を意味していました。ところが近年、中高生や大学生の恋人同士の間でも暴力が頻繁に起こっており、ひどい場合は傷害・殺人事件に至るケースもあることから、「デートDV」として注目されるようになりました。男性から女性への暴力または、女性から男性へという場合もあります。

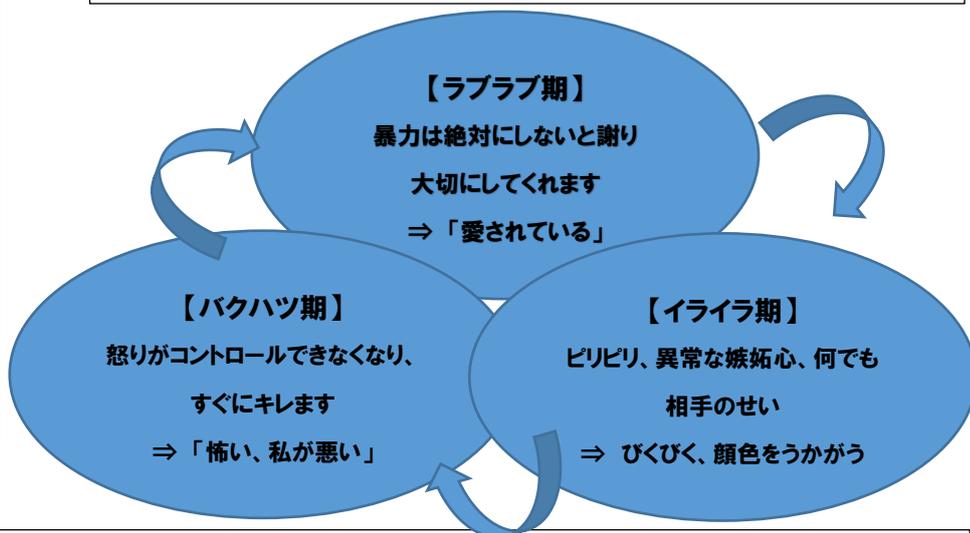
保護者や子どもたちを取り巻く社会が、深刻な事態を避けられるように「デートDV」についての正しい知識を得ると同時に、問題に対してはともに考え取り組む姿勢を持つことが大切です。思春期、特に思春期前期（中学生）は子どもの発達過程からみても、非常に不安定な年頃であり、かわりが難しい年齢ですが、そうであればこそ事実をよく知り、子どもたちが置かれている環境を理解し、よき社会性を身につけ、幸せな人間関係を築いていけるよう、親世代はちょっと手を貸してあげましょう。

<デートDVで起きている暴力>

- ・メールの返信が遅いとキレル。
- ・メールやアドレスなどをチェックし、強制的に消す。
- ・人付き合いを制限する。
- ・人前でバカにする。見下す。殴るそぶりをして脅す
- ・首を絞める。
- ・アルバイトをさせてお金をまきあげる。
- ・裸の画像や動画をネットに公開すると脅す。

デートDVの特徴【DVのサイクル】

DVを受けている多くの人は、被害者意識がないまま、事が起こり続け、エスカレートすることが特徴です。



◆親・保護者はどうすればよいのでしょうか？◆

思春期のお子さんの周りには危険がいっぱいです。微妙な年頃のお子さんに接するのは、とても難しいことですが、安全に健全に成長してほしいとの願いは、みなさん同じ気持ちです。

◆お子さんにしっかりと語りかけましょう◆

- ①被害にあっている人（お子さん）の心理を理解する・・・「自分が悪い」「カッコ悪い」「嫌われたくない」「それでも好き」「怖い」
- ②気持ちを聴く・・・お子さんの気持ちをそのまま受け止め共感する。
- ③伝えたい言葉がけ・・・「あなたは決して悪くないよ」「あなたは大切な人だよ」
- ④事実を確認する・・・「何が起きているのか」「何が一番心配なのか」丁寧に話を聴いてあげてください。
- ⑤専門の相談機関へつなぐ・・・養護の先生や、県や市などにある専門の相談窓口へ相談するようアドバイスしてください。

<デートDVが疑われた場合>

緊急の場合は、担任や養護の先生、専門機関に相談する。緊急でない場合は、気持ちをじっくり聴いてあげてください。

【日光市女性相談ほっとライン】※女性専用相談ダイヤル

0288(30)4140 月曜日～金曜日 8:30～17:15 ※祝日、年末年始を除く